



クリ

雌雄異花で、5月から6月に開花する。9月から10月頃に実が成熟すると自然にいがの中から堅い果実が1-3個ずつ現れる。なぎさ公園小学校のピオトープ近くにあります。

「体験」がもたらす

子どもの成長

なぎさ公園小学校では、本物の体験、とりわけ自然体験宿泊学習が全学年で行われています。夏季休業中に5年生以外の学年で豊かな体験学習が繰り広げられました。

いじめなどの青少年の様々な問題行動を耳にすることが多く、胸を痛めることの多い昨今です。それら問題行動の原因の一つに、かつて当たり前に行われていた自然体験や社会体験を通して成長する機会が少なくなってきたことが挙げられると言われています。子どもにとって「体験」とは心身の成長に大きな効用があります。

ところで、各学年の自然体験宿泊学習では、一つ一つの活動にあわせて「つきたい力」を明確にした目標を定め、指導や対応を行っています。

9月の生活目標

- 体を鍛えよう
- 思いやりの心をもとう

文部科学省の「体験活動の意義」『体験活動事例集—体験のススメ』によると、自然体験の多い子どもに道徳観・正義感のある子どもが多いことや体験の後、勉強にやる気がでた子どもが増えるとの調査結果もあるほどです。「体験」は、人間力の育成に不可欠です。

なぎさ公園小学校では、1年生から自然体験宿泊学習を行っています。発達段階に応じて子どもたちがぐんぐん成長する場面に出会い、その教育効果を実感しています。

●集団生活の中で協調性・自立性を育みます。

衣食住をともしながら、自分でできることを進んで行い、人に喜ばれ、役立つ自分に誇りを持つことができます。

●「知」を総合化し、課題発見力や問題解決力を高めます。

子どもたちは、家庭や学校とは違う環境の中でいろいろな困難なことに出会います。その都度、仲間と一緒に解決しなければなりません。日ごろ学んだことや経験したことを生かすことで、何とか、困難を乗り越えるのです。確かな自信につながります。

●学びの意欲を促進します

日常生活とかけ離れた体験は、感動的で刺激的です。新しい発見や疑問は、新たな学びへの原動力となります。学習後、体験を振り返り、整理し、発信することで学びをさらに発展させていきます。

●いろいろな人と多様な交流の機会を得ることができます。

自然やものに触れるだけでなく、そこに人との交流が生まれることが何より大切なことです。家族や教師以外の人からいろいろなことを教えてもらう中で、はっとするような驚き、気づきが生まれます。「モデルとしての大人」の生き方に触れて、触発され、自ら考え、行動する絶好のチャンスなのです。



6年修学旅行

吉岐に着いたら、島の皆さんから大歓迎を受けました。うれしくて感激もひとしおでした。

あたたかいエピソード

修学旅行4日目。あっという間に広島に帰る日になりました。民宿のお父さん、お母さんたちとお別れです。お礼の気持ちを「大切なもの」という歌にこめて聞いてもらったのですが、歌がちょうど終わってしまったときに民宿のおばあさんが大広間の後ろに入ってこられました。見れば、聞くことができず残念そうなお様子。気がついた教師が事情を話し「もう一度、歌いましょう。」と言うと、全員がさっと後ろ向きになってもう一度歌をご披露しました。とても喜んでくださいました。実は、前日、子どもたちのために伴奏用の重いピアノを母屋からみんなで運び入れてくださっていたのです。なぎさっ子の歌に目をうるませて聞いてくださいました。

